

## 令和7年度 学校関係者評価実施報告書

|      |    |     |                      |     |      |
|------|----|-----|----------------------|-----|------|
| 学校番号 | 24 | 学校名 | 伊豆の国特別支援学校<br>伊豆松崎分校 | 記載者 | 中 康平 |
|------|----|-----|----------------------|-----|------|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

|            | 取組目標  | 成果目標   | 自己<br>評価 | 関係者<br>評価 | 意見   |
|------------|---|--|----------|-----------|--|
| 安全・安心<br>① | 生命の尊さや人とのつながりを大切にし、一人一人の良さを受け入れ、互いを思いやる心の醸成 | ①経営計画に基づき、生徒の命が守られていると答える教職員や保護者 (AB100%)  | A        | A         | ・危険を予知する取り組みをすることは出来ないか。<br>・大変と思いますが昨今の異常気象もあり、合わせた対応が必要と思った。                           |
|            |   | ②信頼できる教職員に向けて、自身の行動を振り返ることができた教職員 (AB100%)<br>お互いの良さに気付き、認め合い協力し合うことができた生徒 (AB80%) | B        | B         | ・ちょっとでもムリが言えるような関係になってもらいたい。<br>・やりがいや必要とされていることを伝えることにより、人との繋がりがりや助け合うことなど感じてくれるのかと思った。 |
| 安全・安心<br>② | 命のつながりを実感する食育や健康な体づくりの推進                    | ③家庭と情報共有し、生徒の健康な体づくりに取り組んだ教職員及び保護者 (AB100%)  | A        | A         | ・情報の共有は、とても必要なことだと思う。  |
|            |   | ④食と各教科等の関連を意識した指導をした教職員 (AB90%)  | A        | A         | ・地域で作られる農産物や加工品など食べて頂けると嬉しいと感じる。<br>・より地域を知ることが人との繋がりに通じるかと思う。                           |
| 安全・安心<br>③ | 生徒の命を守る安全教育の充実                              | ⑤緊急時の対応や防犯防災訓練をとおして、自分の身の守り方を学んだ生徒、教職員 (AB80%)                                     | B        | B         | ・何かあった時に落ち着いて行動出来る。<br>・とてもご苦労と大変さがあると思うが、普段からの訓練は大切だと思う。                                |
| 専門性<br>①   | 体的・協働的・深い学びによって資質・能力を育成する授業実践               | ⑥小グループでの意見交換をとおして生徒の思考を見取り、授業づくりに生かした教員 (AB90%)                                    | A        | A         | ・適切  |

様式第5号

|            |                                |   |   |   |                               |
|------------|--------------------------------|---|---|---|-------------------------------|
|            |                                | ⑦ラーニングマップ等のツールを活用した授業作りを行い、授業実践と授業改善を行った教員 (AB85%)          | B | A | ・適切                           |
| 専門性<br>②   | 特別支援教育の専門性の向上                  | ⑧障害の特性に応じた支援や学習指導要領に基づく研修ができた教員 (AB90%)                     | B | B | ・いろいろな生徒に対応しなければならないので大変だと思う。 |
|            |                                | ⑨PCやタブレット等の活用により、授業準備の効率化や学習の定着に効果を得た教員 (AB85%)             | B | B | ・AI も上手く活用すると良いのでは。           |
| 連携<br>①    | キャリア教育の視点で生徒の願いや夢を大切にした進路指導の充実 | ⑩生徒や保護者とともに目標の共有と実現に向けて指導した教員 (AB80%)                       | B | A | ・適切                           |
|            |                                | ⑪生徒に応じた適切な情報提供や、進路指導ができたと答える教員及び保護者 (AB80%)                 | A | B | ・進路の選択肢が少ないと思う。               |
| 連携<br>②    | 保護者や地域住民との協働を推進し、地域と共に歩む学校づくり  | ⑫適切な学習を計画し、地域に貢献できたと感じる教職員 (AB80%)<br>地域に情報発信できた教職員 (AB80%) | A | B | ・加工の作業などは出来ないか。               |
|            |                                | ⑬地域の資源や人材を活用した学習活動をとおして、生徒が意欲的に学んだと感じる教職員及び保護者 (AB80%)      | A | B | ・ボッチャを地域の方と出来ないか。             |
| チーム学校<br>① | 特別支援学校のセンター的機能の充実及び関係機関との連携の強化 | ⑭センター的機能による成果の整理及び検証 (毎学期)                                  | A | A | ・適切                           |

様式第5号

|        |                                    |   |   |   |   |
|--------|------------------------------------|---|---|---|---|
|        |                                    | ⑮学校内外の情報共有と、支援会議やケース会議等での案件の整理及び成果の検証（毎学期）              | A | A | ・適切   |
| チーム学校② | 教職員一人一人が責任をもった業務遂行と、やりがいを感じる働き方の推進 | ⑯キャリアステージと自己評価シートに基づき、自身の役割を理解して分掌や学年の運営等携わった教職員（AB80%） | B | B | ・業務時間内に仕事が終わっているか。  |
|        |                                    | ⑰計画的な業務遂行のために努力し、働き方を改善できた教職員（AB70%）                    | B | B | ・Line グループなどで共有できるものは無いか。<br>・全ての項目にAと回答させていただいた。本アンケートは、現場での接点を有する教職員、保護者の方々の意見によって構成されるべきものであって、自分のように年に数回程度伺っている者には評価のしようもない。外部との接点はもっと増やすべきとの思いはある。 |